

令和5年度文化祭

12/2(土)に学校で令和5年度文化祭を行いました。

前半は謎解きをしました。

去年、謎解きで大掛かりな仕掛けを作っていて、今年も別の仕掛けを作りたいと思いました。そこで夏休みに、最終問題を解くのに最終問題の答えを使う入れ子構造の仕掛けを作りました。思いついたときは自分の中で天才的なアイデアで、お客さんが気づいた時にアッと驚く想像をしていました。ウキウキしながら学校に持っていくと、「それで？」という感じでした。自分の中では天才的なアイデアなので、なぜ「おもしろい」と感じてくれないかが分かりませんでした。

とりあえず、「おもしろい」と感じてくれないので、考え直しました。分からない中で考えた結果、入れ子構造は文化祭のスローガンの「想造」の部分が薄かったと考えたので、今度はお客さんに当日に謎と謎を組み合わせて新たな謎を創造してもらって謎を考え出しました。「今度こそ！」と思いながら持っていくと、「作ってどうすんの？」と言われました。「作る創造を掛け合わせたのに何でダメなん？」と心の中で言いながら、とりあえず何かしらの欠点があると私は考えて、ふりだしから作り変えました。

先生方のアドバイスから、お客さんが最終的に何をするかつまり、ゴールはどこかを考えました。しかしお客さんのゴールを考えても、謎解きでどういった仕掛けができるかが思いつきませんでした。そして、ゴールを作っては仕掛けが思いつかなくて考え直すのを2週間くらい繰り返しました。ある日の寝る前、何かできないかを考えていると、今回のパズルの謎が頭の中に降ってきました。そこからパズルのピースが嵌っていくように最終問題やお客さんのゴールなどの問題が決まっていきました。そして三度目の正直で謎を持っていくと、好感触で謎がやっと決まりました。ここまで来るのものすごい時間がかかって、世の中の謎解きクリエイターはすごいと感心しました。文化祭当日では、「難しすぎる」という意見もありましたが、みんなが「おもしろかった」と言ってくれて、やり直したり試行錯誤したりした甲斐がありました。

後半はプレゼンをしました。三部に分けて「想像してきた道」「創造してきた道」「想造したい未来」を話しました。

第一部で、お父さんと私の幼少期からここにくるまでのことを対談しているときに、お父さんから、「なんでうちの子に障がいがあるんやろ」と言いました。私も過去に、同じことを考えたことがあります。近い関係のお父さんが同じ考えを持っていて驚きました。それと同時に自分のことを心配してくれてうれしかったです。

第二部では、創造してきたものを紹介しました。話していく中でプロセカの話になり、早稲田摂陵の生徒さんと共通の話題があり仲良くなれました。新たな高校生と仲良くなれてよかったです。そのあと、紹介していた体育祭種目の攻城戦をやってみたくて言ってくれました。攻城戦を作って本当に良かったと思いました。

第三部では、私の高校卒業後の未来について話しました。資料を作る際に、文字だらけで私が気づかないうちに堅苦しくなっていました。担当の先生から、相関図の提案をいただきました。分かりやすく伝えられる方法が出てきて私の中で雷が降って来ました。一人で物を作り続けるのではなく、新たな視点を取り入れるのが大事だと感じました。

最後の感想で、早稲田摂陵の人に「勇気をもらえた」と言ってもらえました。同年代の人に言ってもらえて非常にうれしかったです。

文化祭というワンマンライブをして、先生方に指示を出すことが大変でした。上手に指示が出せないと全く違う方向に行ってしまうことがあるので、そこを考慮するのが大変でした。これから自立生活するにあたって、もっと上手な出し方を学びたいです。

手伝ってくださった先生方ありがとうございました。